

# 「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する総括的調査・提言研究 報告書 概要

## 【(公財)建築技術教育普及センター 平成25年度調査・研究助成】による

「インテリア・リフォーム系キャリア教育」支援構想委員会

責任者：澤田知子（工学院大学研究員）

委員：堀 啓二（共立女子大学 家政学部 教授）委員：上野義雪（千葉工業大学 工学部 教授）委員：後藤 治（工学院大学 建築学部 教授）委員：飯島直樹（工学院大学 建築学部 教授）委員：鈴木敏彦（工学院大学 建築学部 教授）委員：富永祥子（工学院大学 建築学部 准教授）委員：江川香奈（東京電機大学 情報環境学部 助教）委員：下田清二郎（東京インテリアプランナー協会）委員：稲垣雅夫（東京インテリアプランナー協会）委員：佐藤岳利（東京インテリアプランナー協会）委員：富田互正（東京インテリアプランナー協会）委員：黒岩幹夫（マンションリフォーム推進協議会）委員：山領恵子（マンションリフォーム推進協議会）委員：永元 博（住宅価値創造研究所）

## 1. 本研究の背景

大学では、社会のニーズに応えた「人材育成機能の強化」の方針が遂行されるなか、「建築」だけでなく、「インテリア」や「リフォーム」の専門分野を拡充するニーズが、工学部・家政学部などで顕在化している。一方、対応する産業界では、インテリア関連として「東京インテリアプランナー協会」、リフォーム関連として「マンションリフォーム推進協議会」などの組織があり、資格制度の普及促進等によって、人材育成支援の活動を展開している。学生一人ひとりが自分の将来に明るい希望を持ち、専門知識・技術を身につけて大学を巣立ち、有能な職業人として活躍できるよう、専門分野として期待される「インテリア・リフォーム系」に焦点をあてた「産学連携支援」を推進することは、教育界・産業界を通じた共通課題であり、人材育成としての大きな期待と言える。この課題に応えるため、平成23年度調査研究で「基礎的調査研究」を完了（同報告書参照）。平成24年度調査研究で「実践的活動研究」を完了（同報告書参照）。その流れを受け、平成25年度調査を企画した。

## 2. 本研究の目的

平成25年度の調査研究は、「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する最終成果を得ることとし、「①産学連携組織を拡充」するとともに、「②若手卒業生を対象としたアンケート調査」、「③インテリアプランナー資格試験対策講座の試行」「④関連イベントIPEC2014の産学協同活動企画」を実施することを通じて、建築・インテリア・リフォーム分野における「キャリア教育」に関する「総括・提言」を行うことを目的とする。

## 3. 産学連携体制の拡充

平成25年度調査研究においては、大学関係、企業関係の新任委員4名を加え、全体15名の産学連携体制で研究を行った。

## 4. 建築・インテリア・リフォームに関わる「卒業生対象アンケート調査」の結果

### 4.1 「卒業生対象アンケート調査」概要

目的：卒業生を対象に、その体験に基づく回答を得る「アンケート調査」を実施し、「大学生」からみた先輩であり「社会人」でもある卒業生の立場からの有効な示唆を得る。

実施時期：2013年9月～10月

アンケート調査方法：了解を得て各大学の卒業生名簿を入手、アンケート用紙を郵送配布・回収した

配布数：1900、有効回収数：145 回収率：7.6%（卒業生住所管理に困難があり、本人に届かぬ発送物が多数あった）

調査対象大学：工学院大学(建築学系) 千葉工業大学(デザイン学系) 共立女子大学(家政学系)の3大学

対象大学は、現況として「一・二級建築士」「インテリアプランナー」受験資格を有する

卒業生の大学卒業年：1995年～2008年（卒業後5年～15年を経過した卒業生）

### 4.2 「卒業生対象アンケート調査」の結果

以下の調査項目について回答を得た上で、集計と分析（大学別・男女別）を行い、その結果について解説した。

A：卒業時・卒業後の事柄 大学別・男女別/学生時代の専門領域/これまでの就業経験と現在の職業

B：有職者の就業状況 入社動機/勤務先の企業種別/勤務先での職種

C：在学時の学習内容 講義科目/課題/専門技術/人間力/課外活動

D：資格取得状況

E：あなたの学生時代を振り返って

F: あなたのライフスタイル

G: 「キャリア教育」の産学連携について

#### 4.3 「卒業生対象アンケート調査」の結果に関する「大学関係委員、企業関係委員」からのコメント

ここでは、「卒業生対象アンケート調査」の結果について、大学関係委員3名(工学院大学・千葉工業大学・共立女子大学)と企業関係委員6名(インテリア関係3名・リフォーム関係3名)に分析結果の説明を行い、調査項目ごとにコメント(意見・考察等)をもらい資料を作成した上で、考察として全体をまとめた。

### 5. 「インテリアプランナー」資格試験対策講座の試行的実施とその結果

#### 5.1 資格試験対策講座の企画

大学において建築やインテリア等の専門性に関する基礎教育を受けている学生であることから、資格試験を目的とした実践的な講座を開講し、不足する知識・能力を補っていくことで、「合格」する可能性があると考えた。

そこで、本年度は当委員会として積極的支援を行い(受講料無料・教材の提供等)、下記の内容で実施することとした。

講座名: 「インテリアプランナー」資格試験対策講座

主催: 「インテリア・リフォーム系キャリア教育」支援構想委員会

場所: 工学院大学 新宿キャンパス 21F 第5会議室

講座の詳細 第1日目: 9月29日(日) 9:00~18:00 ・パース特別講座

第2日目: 10月6日(日) 9:00~18:00 ・製図特別講座

#### 5.2 資格試験対策講座の結果

「資格対策講座」については、学科内で説明会を実施し受講生11名が集まった。それらの受講生に対して、講座の目的(資格試験の対策講座)ならびに「本資格試験の受験申込み等」について周知を図った。しかしながら、対策講座当日には、無断欠席や遅刻等があり参加者は半減し、集中した「対策講座」を実施できなかった。最終的には、本試験受験者は1名(学科のみ合格)のみであった。

試行的実施に関する考察として、受講生に対するアンケート調査(講座終了時に実施)と講座講師3名に対するアンケート調査を実施した。受講生アンケートによれば、資格対策講座は「たいへん良かった」が「パースの勉強ができる」などの動機に止まり、受験対策としての目的という点では、有効な成果に繋がらなかった。この背景には、大学生が「インテリアプランナー」資格を知らないこと、受験用テキストが普及しておらず勉強の仕方がわからないこと、主催側も資格取得の価値や魅力が十分説明できないことなどがある。

### 6. 関連イベント「IPEC2014」における産学協働活動の企画

「IPEC2012」の開催においては、共済「学校法人工学院大学」とし、会場を同大学に移して実施した。この企画は、内外から好評であったことから、本年も同様の企画が進められている。本研究チームとしては、2012年イベントの中で「産学協働活動」を実施し、実績をつくった。本年の予定では、11月初旬に「IPEC2014」を開催する計画であり、その中で産業界と教育界が連携する活動も企画を進める。

### 7. 「インテリア・リフォーム系キャリア教育」の産学連携支援に関する総括と提言

平成23・24・25年の流れで調査研究を実施した結果、明らかとなった「課題と提言」について、以下の項目にまとめた。

- (1) 卒業生の「入社動機」と大学生の就職先「選択意向」からみた課題と提言
- (2) 就職状況(正社員率・職種等)とライフスタイルにおける「男女差」からみた課題と提言
- (3) 卒業生・企業側からみた「大学教育の内容改善」の課題と提言
- (4) 「インターンシップ制度」の今後に向けた課題と提言
- (5) 資格取得状況と「インテリア・リフォーム資格制度」普及のための課題と提言
- (6) 産学連携による人材育成活動のための課題と提言

なお、この総括に基づいて、「インテリア・リフォーム系」産学連携協議会(仮)組織図を提案した。

### 8. おわりに

本調査研究の成果については、日本インテリア学会論文集に投稿し、公表する予定である。